

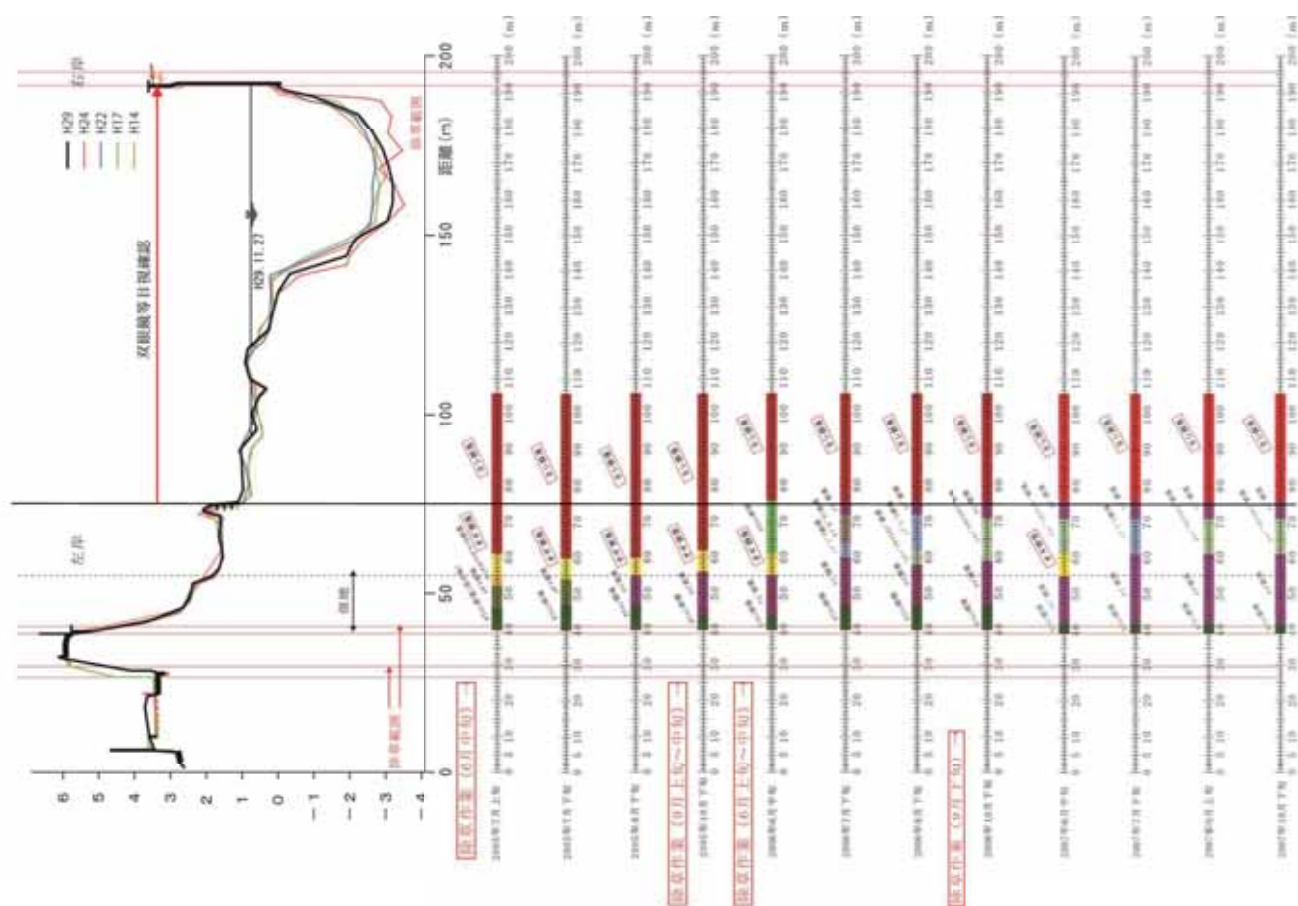


図 2.6.7.4(2) 横断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

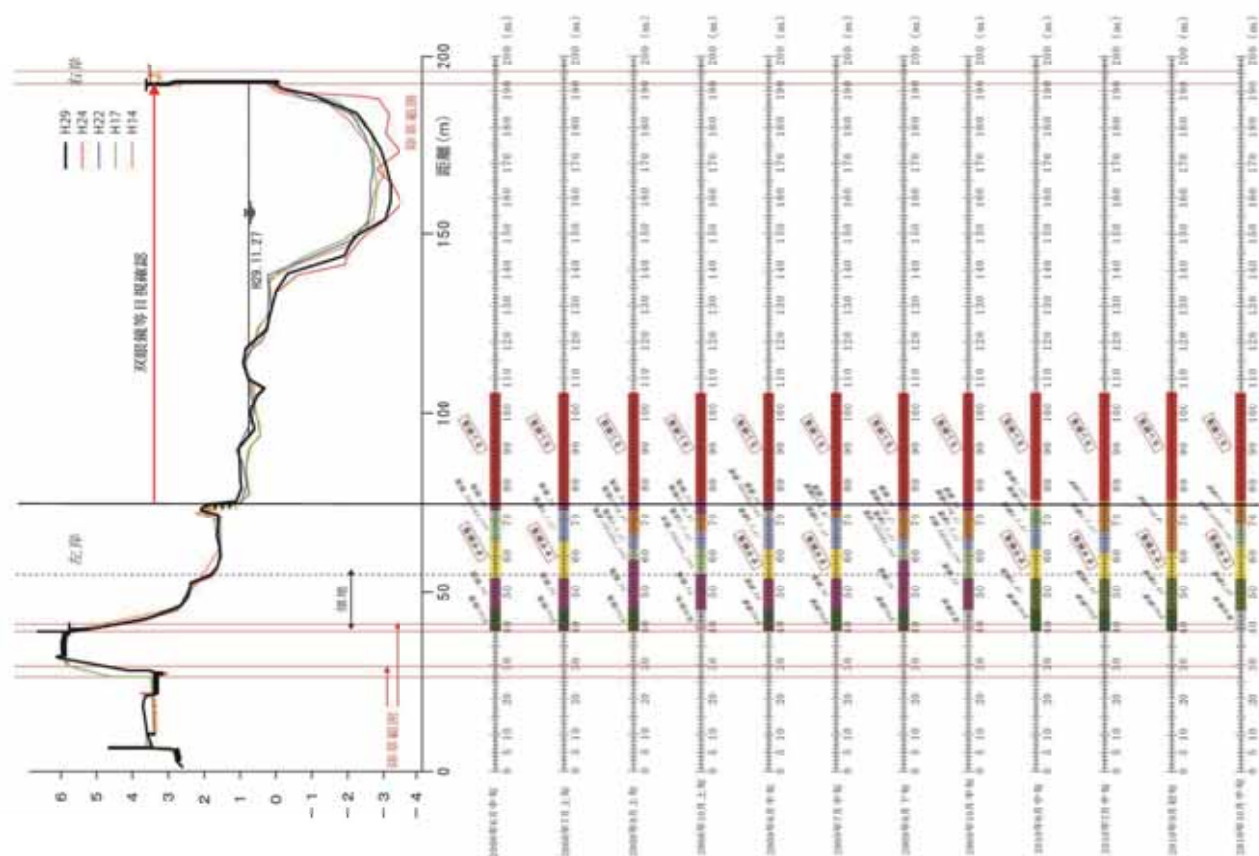


図 2.6.7.4(3) 横断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

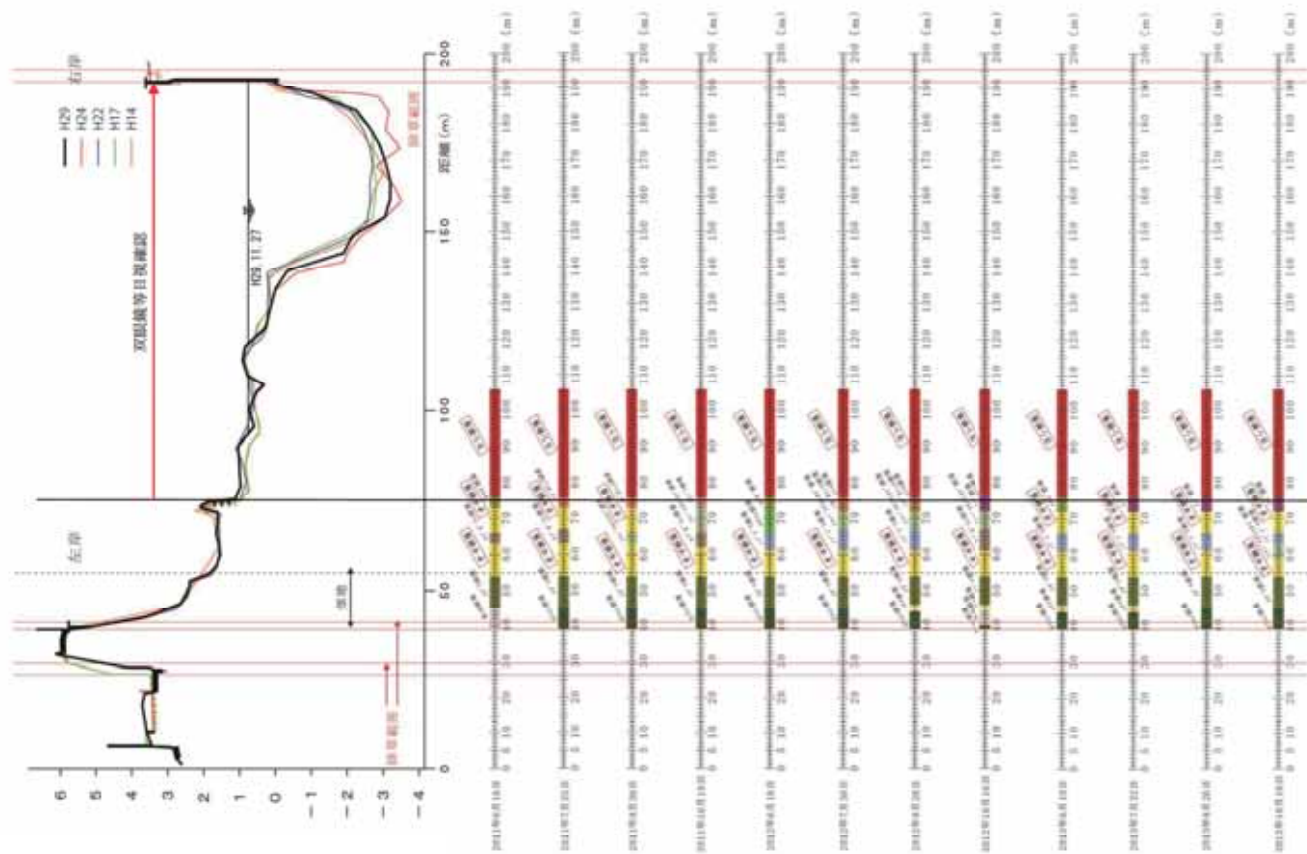


図 2.6.7.4(4) 植生断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

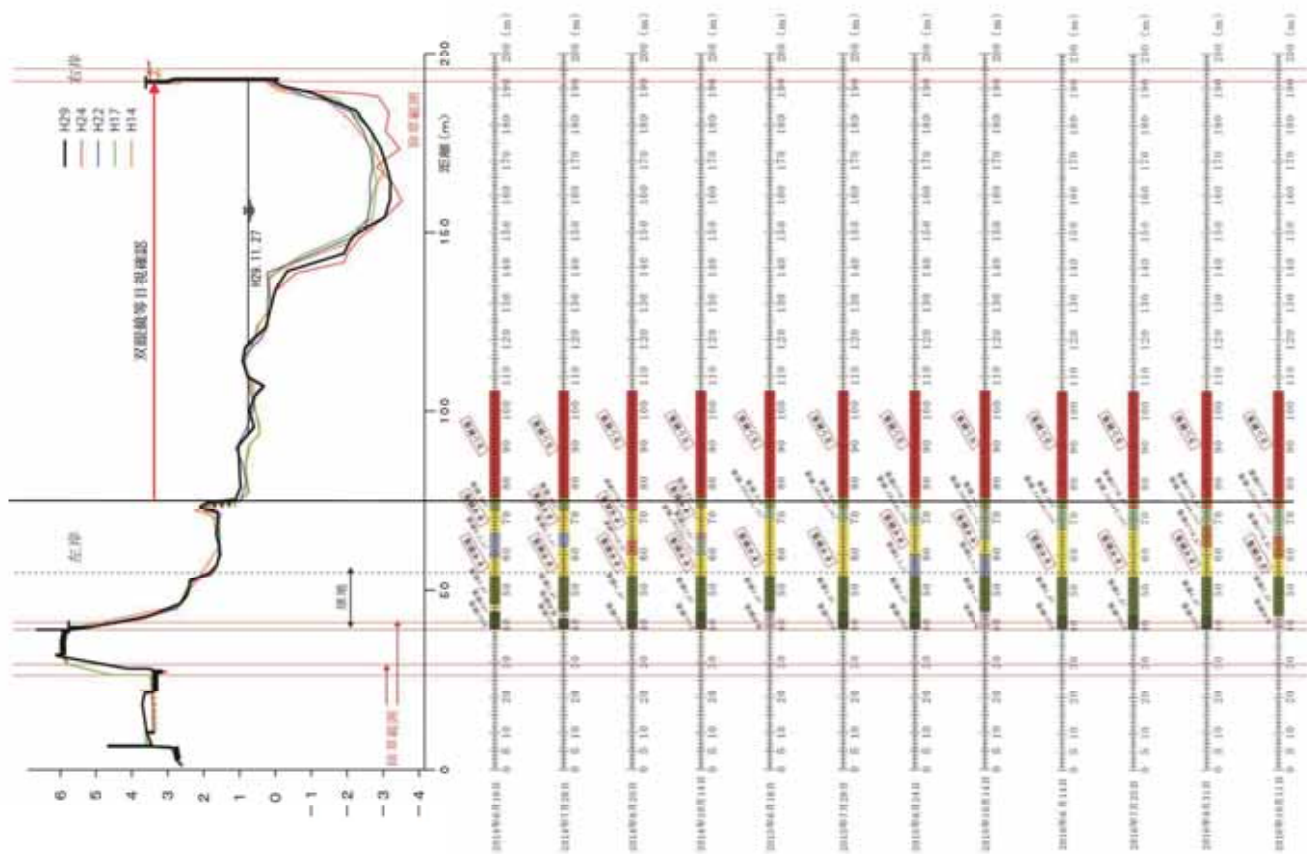


図 2.6.7.4(5) 植生断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

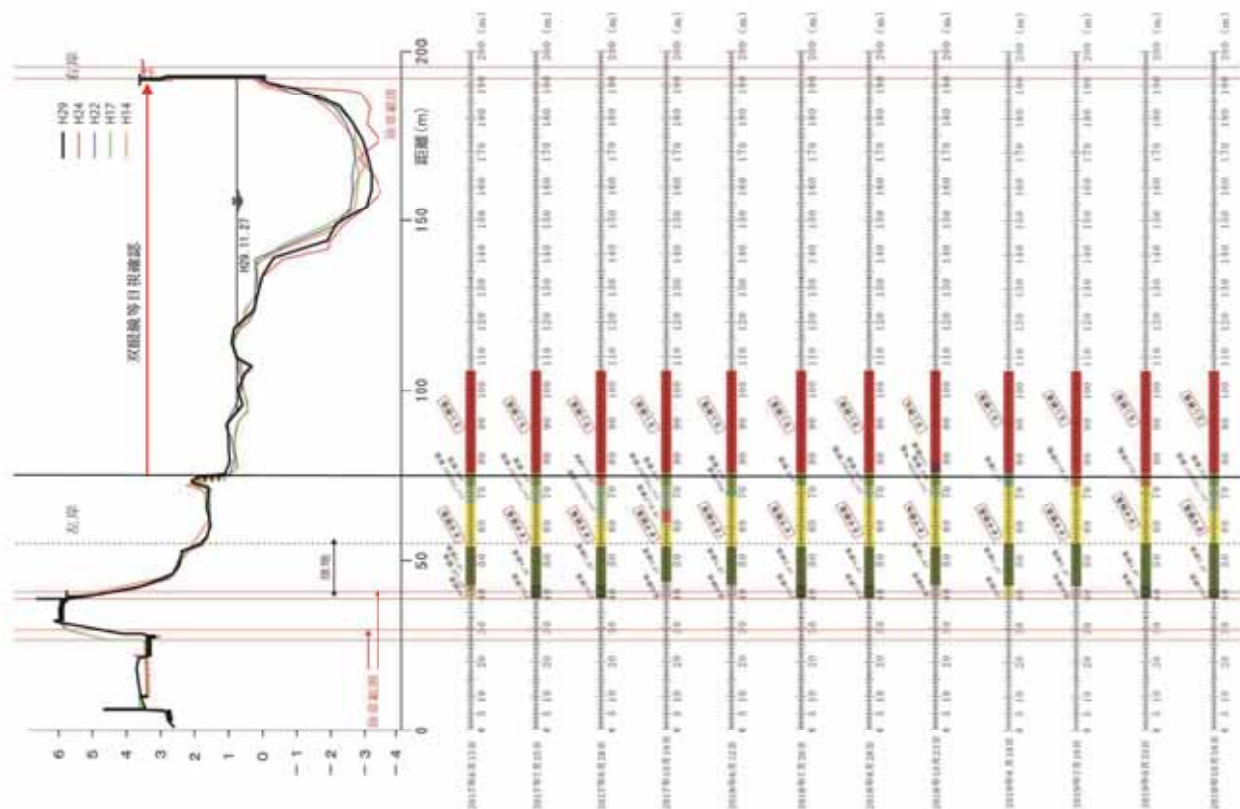


図 2.6.7.4(6) 横生断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

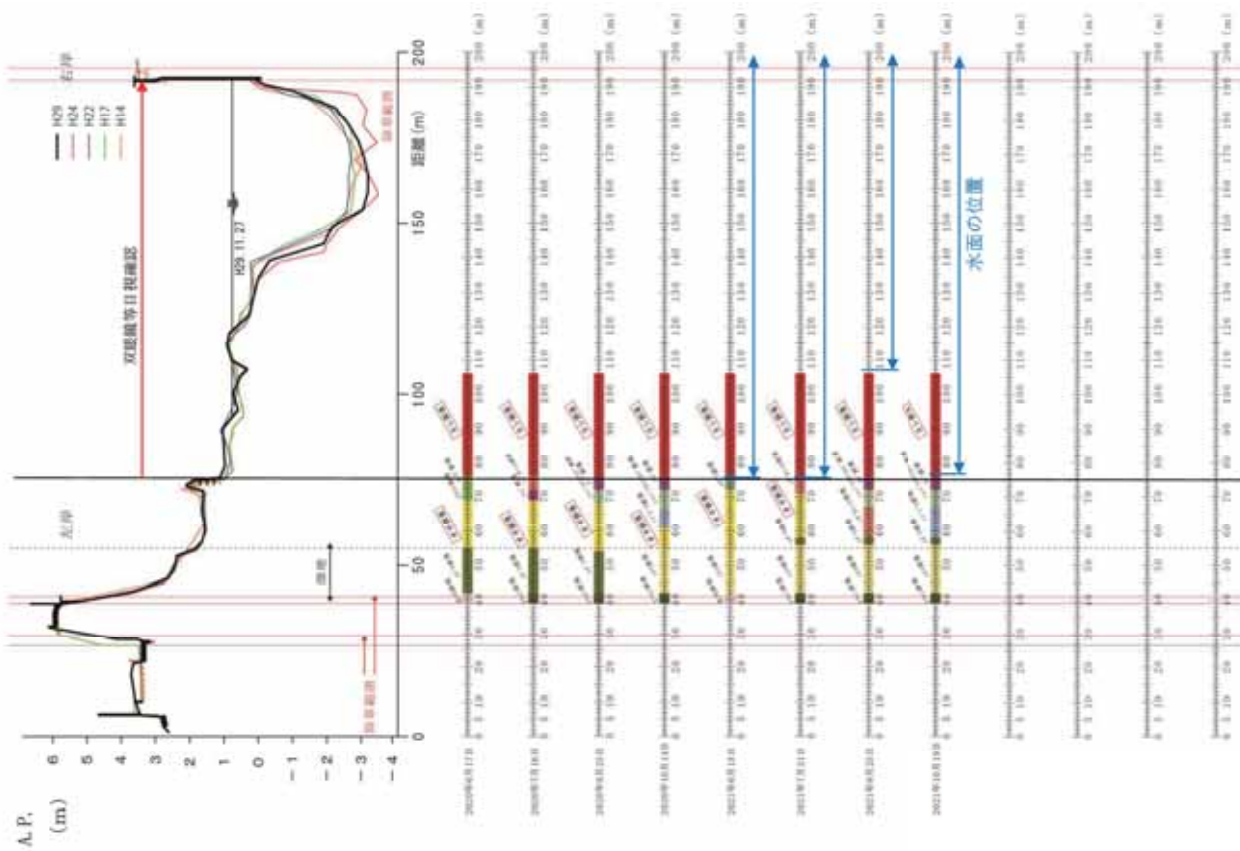


図 2.6.7.4(7) 横生断面図の変化 (今切川 11.4 km地点)

・ 水際の断面模式図

各地点における水際の状況が分かるように、水際周辺の10mの範囲で断面模式図を以下のとおり作成した。

表 2.6.7.1 断面模式図 (旧吉野川 23.4km 地点)

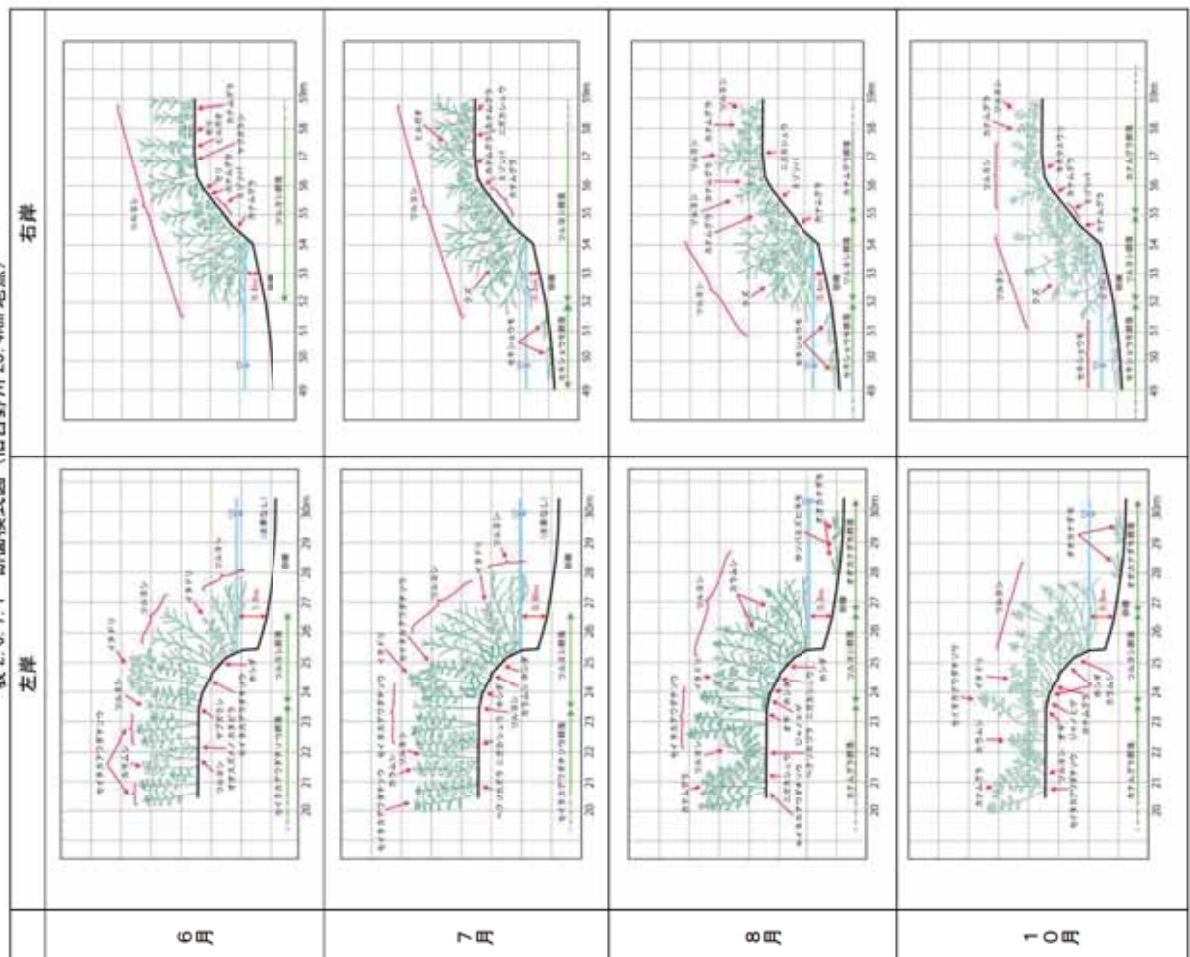


表 2.6.7.2 断面模式図 (旧吉野川 18.6km 地点)

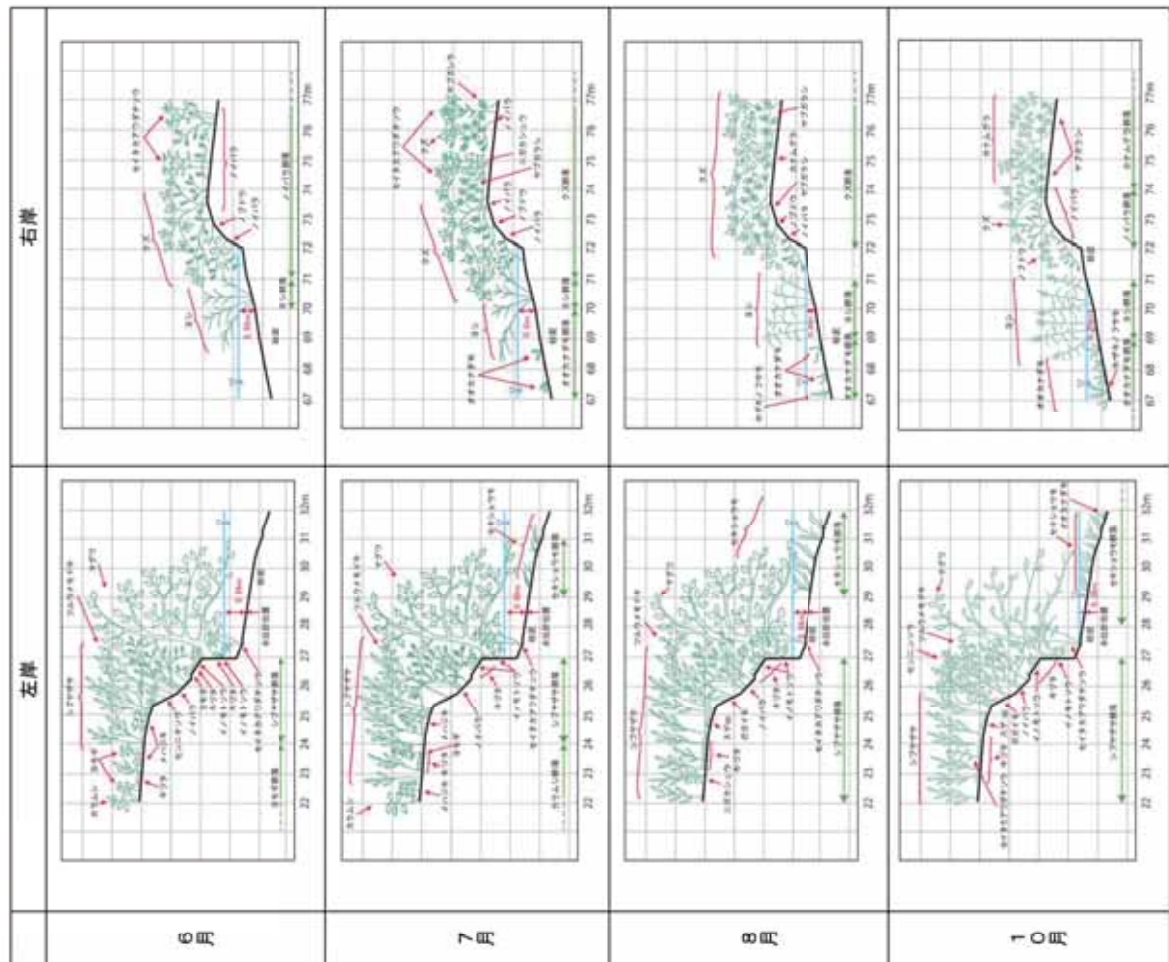


表 2.6.7.3 断面模式図 (旧吉野川 6.4km 地点)

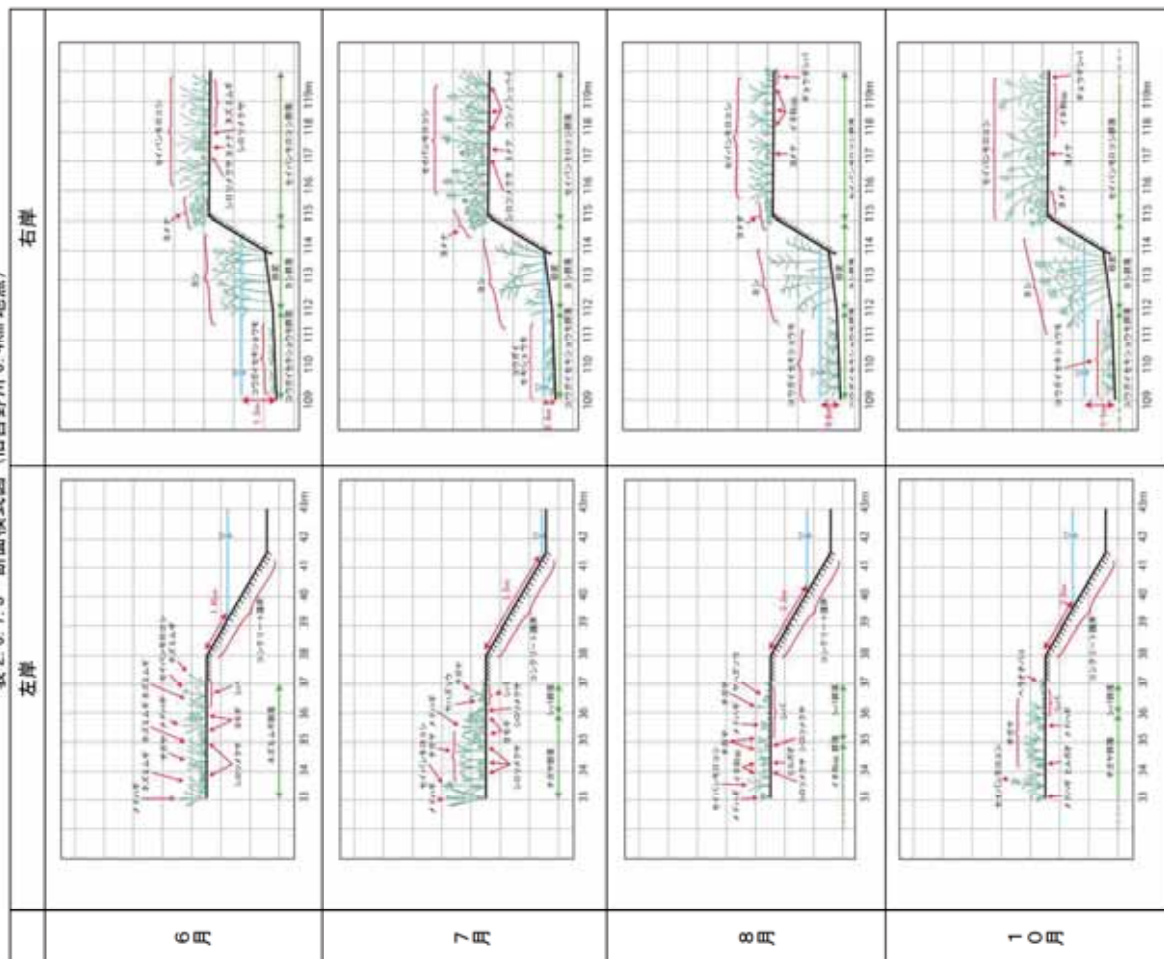
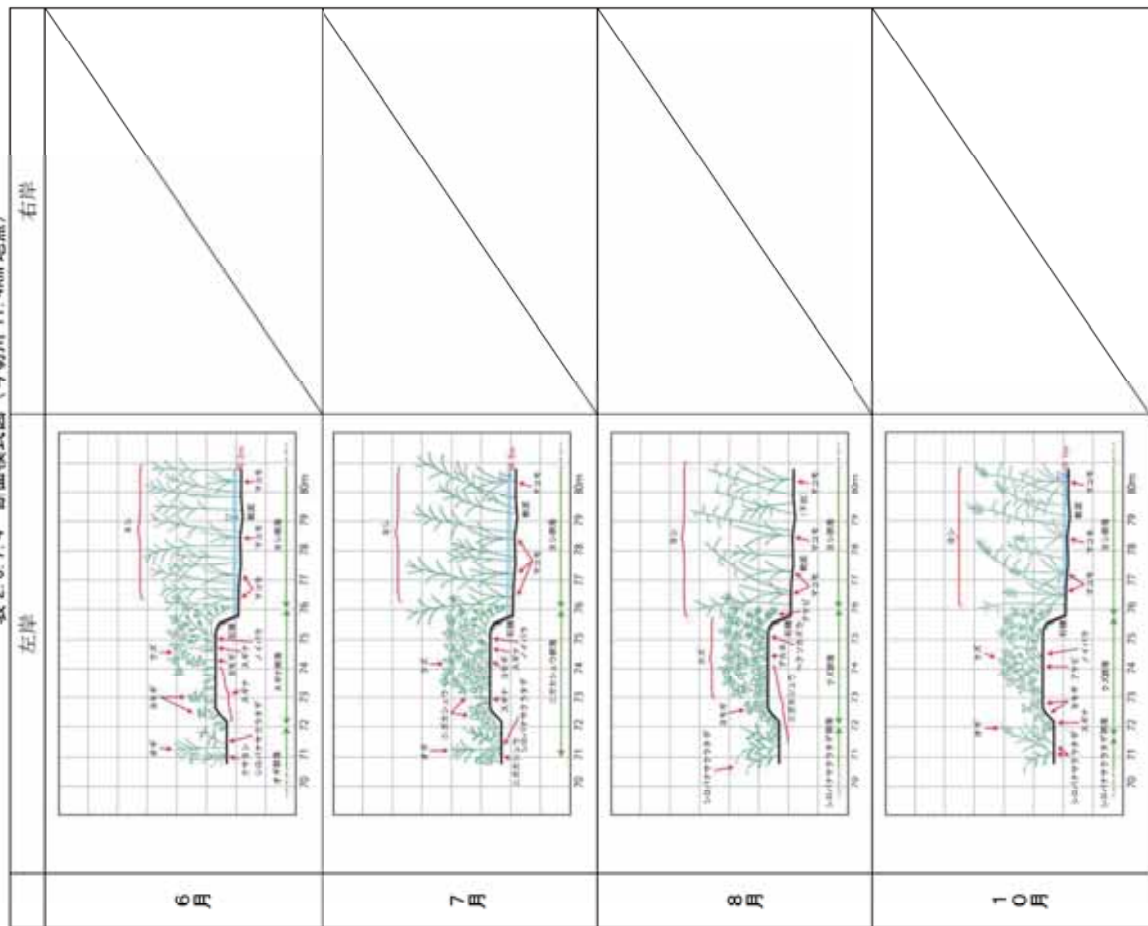


表 2.6.7.4 断面模式図 (今切川 11.4km 地点)



8) 重要な植物種（ミクリ）

・ 令和3年度の傾向

平成15年度は生育株数が60株以上を維持していたが、平成16年度調査では約30株と減少していた。しかし、平成17年度では、生育株数が約4倍の127株で安定し、結実株数もこれまで最高の30株となった。平成18年度は162株と調査を始めて最も多くみられたが、平成19年度の調査後半から減少し始め、平成21年度には8～9株まで減少した。平成22年度以降は徐々に回復傾向にあり、平成23年度から結実株が確認されるようになった。しかし、平成27年度に再び減少し、平成30年度には4～10株が確認され、結実株は1株となり、令和1年度以降は確認されいない。本年度は、6月に調査を実施したが、確認されなかった。

減少が著しく観察された平成19年度にはホテイアオイが一時的に増加していたことから、ミクリの減少はホテイアオイによる被圧が要因の一つであった可能性が考えられた。その他の要因として、土質や流れの変化が考えられたが、現地調査ではこれらの経年的な大きな変化はみられなかった。

平成22年以降もホテイアオイの生育は見られるものの、その生育量は僅かであり、ミクリの生育は回復傾向にあると考えられたが、平成26年度はミクリの株数が前年と比較し減少していた。その要因として、河岸のノイバラの枝が伸びミクリ群落の陸地側を覆っていたこと、またツルヨシが数本ミクリ群落に侵入しておりその競合により生育状態が悪化していたことが考えられる。また、8月調査時には台風11号の影響により、河岸から離れた水深の深い場所に生えていたミクリの枯損が目立っていた。

平成27年度調査以降は、河岸に生えていたクヌギが伐採されたことにより、ミクリ群落付近に倒れたことが要因で、株数・生育面積ともに大きく減少した。ミクリの上部が河岸より張り出したノイバラの大株に上部を覆われ、日照条件が悪化した状態が続き、平成30年度の6月調査時点で1株のみ確認されたが、それ以降は確認されていない。ミクリの種子は、散布された直後は深い休眠状態にあり、休眠解除には、果皮の除去だけでは不十分で長期間の後熟も必要であるという。また、ミクリの種子は水にしばらく浮遊するため、川の流れによって分散し、その後、条件が一致した時に発芽するといった生態を持つと推察される。従って、ミクリが旧吉野川20.0km地点で再び確認される可能性は低いと考えられる。

現時点では平成26年度に開始した通水試験の影響の有無は不明である。

・ 調査日及び調査地点（令和3年度）

調査地点	第1回
	7月19日

・ 調査結果

表 2.6.8.1 ミクリの生息環境及び生育状況(1)

調査年	立地環境	傾斜	土質	流れの有無	調査時の水深	株数
2003 (H15年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	70cm(6月)～	約60
					36cm(10月)	
					80cm(6・8月)、	
2004 (H16年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	114cm(8月)、	約30
					40cm(10月)	
2005 (H17年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	70cm(7月～10月)	127
2006 (H18年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	70cm(6月)～	105～162
					43cm(10月)	
					70cm(6月)	
2007 (H19年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	115cm(7月)	45～150
					95cm(9・10月)	
2008 (H20年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	52cm(7月)	16～18
					41cm(8月)	
					50cm(9月)	
					70cm(10月)	
2009 (H21年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	45cm(6月)	8～9
					75cm(7月)	
					70cm(8月)	
					80cm(10月)	

表 2.6.8.2 ミクリの生息環境及び生育状況(2)

調査年	立地環境	傾斜	土質	流れの有無	調査時の水深	株数
2010 (H22年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	75cm(7月)	16～17
					75cm(8月)	
					50cm(10月)	
2011 (H23年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	60cm(6月)	24～35
					75cm(7月)	
					70cm(8月)	
					40cm(10月)	
2012 (H24年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	70cm(6月)	38
					60cm(7月)	
					60cm(8月)	
					50cm(10月)	
2013 (H25年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	60cm(6月)	33～50
					50cm(7月)	
					40cm(8月)	
					50cm(10月)	
2014 (H26年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	60cm(6月)	23～40
					60cm(7月)	
					50cm(8月)	
					40cm(10月)	
2015 (H27年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	40cm(6月)	11～15
					60cm(7月)	
					70cm(8月)	
					50cm(10月)	
2016 (H28年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	40cm(6月)	4～10
					30cm(7月)	
					50cm(8月)	
					40cm(10月)	
2017 (H29年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	40cm(6月)	2～3
					50cm(7月)	
					50cm(8月)	
					40cm(10月)	
2018 (H30年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	50cm(6月)	0～1
					50cm(7月)	
					50cm(8月)	
					30cm(10月)	
2019 (R1年)	水際	10°	砂及びシルト	有（緩）	40cm(6月)	0
2020 (R2年)	水際	10°	砂混じりシルト	有（緩）	30cm(6月)	0
2021 (R3年)	水際	10°	砂混じりシルト	有（緩）	40cm(7月)	0

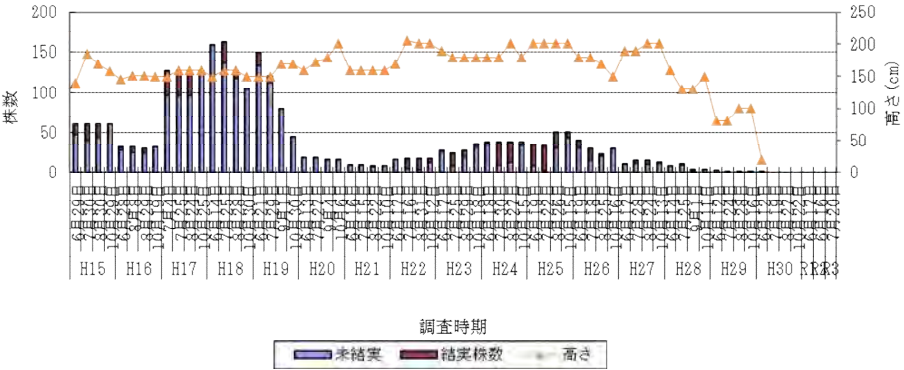


図 2.6.8.1 ミクリの株数及び高さ

3. 取水口の工事による影響を確認するための調査

(1) 水 質

1) 河川水質の各項目の観測者及び観測地点は以下のとおり

観測項目： pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数、T-N、T-P、クロロフィルa、濁度

観 測 者： 四国東部農地防災事務所

観測地点： 吉 野 川・・・柿原取水口、第十取水口

旧吉野川・・・旧吉野川揚水機場

